



Loopmaster

生活シーンとリンクする 身に着けるためのオーディオ

オーディオのためではなく使う人のためのデザイン。Loopmasterはそんなデザイン思想から生まれた。開発はバイオニアの新事業創造室。デザイナー、サウンドエンジニア、マーケティング担当など、さまざまな部署から集められた社長直属の小さな部隊で、これまでにない切り口での製品開発を目指し活動している。HAPPY TUNE、ピュアモルトスピーカーといったヒット商品群も彼らによるものだ。

使う人が完成させる “不完全な”カタチ

Loopmasterのデザインアプローチが従来の携帯用オーディオ機器

と根本的に異なるのは、身に着けるものとして何が重要かということが商品開発のベースになっている点だ。これまでの製品の多くが、そのものの自体のスタイリングにばかりこだわっていたのに比べ、Loopmasterは洋服やアクセサリのように他人に自分の嗜好を表現するためのツールとして作られている。シースルーの本体上面部からは中に入っているCDのラベルが見え、自分の聴いている音楽をファッションの一部として表現できる。先鋭的な本体のシェイプは内部のCDと合わさって初めて完成形となるように計算されたデザインだ。

Loopmasterでは、「軽い、小さ

い」という、この種の製品の至上命題は絶対条件として扱われていない。技術的な理由もあったようだが、最後発で他社よりも大きいCDプレイヤーを作ってしまったところはおちゃめとしか言いようがない。

「小さいのは正義。でも人はモノとしての正しさだけで選択をするわけじゃないから」。デザインを担当した浜田道昭氏は言う。確かに、ブラックライトで光るモデル、布を配したモデル、ファッションメーカーやアーティストとのタイアップモデル…と、多くの選択肢をそろえたこのシリーズは、これまでにない製品選びの楽しみをユーザーに提示している。



オプションのベルトなどを用い、好みの音楽を文字通り“身に着ける”ことができる。

PROFILE ● 酒井俊彦(さかいとしひこ)

サカイデザインアソシエイツ代表。87年東京造形大学卒業。通産省選定グッドデザイン賞、アビターレイテンポ展(伊)、1995デザインの現在展(加)ほか。